

## 総合医薬学研究科(総合医薬学専攻)の三つのポリシー(修士課程・博士前期課程)

<p style="text-align: center;">大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;">研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的</p> <p>総合医薬学研究科は、医学、薬学及び看護学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成することを目的とする。</p>
---	---

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p><b>【修了認定・学位授与の方針】</b> 総合医薬学研究科は、医学、薬学及び看護学分野の学術の理論、技術及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、さらにこれら分野間の連携、融合により人と地の健康文化の進展に寄与することを目的としている。 この目的に基づいて、医学、薬学、看護学における普遍的知識・技能、さらに他の教育研究分野と幅広い学問の基盤的能力を修得し、高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知を創り出す能力を身に付け、総合医薬学研究科が示す学修成果を上げた者に学位を授与する。</p>	<p><b>【教育課程編成・実施の方針】</b> 総合医薬学研究科では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示した能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。授業は講義・演習・実験・実習・実技の様々な方法・形態等により行い、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとする。その評価は各能力における学修成果の到達目標に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて行う。</p>	<p><b>【入学者受入れの方針】</b> 総合医薬学研究科は、本研究科の目的、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、医療系の研究分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、人と地の健康文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。 そのため入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供する。</p> <p><b>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】</b> 多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また社会人特別入試及び外国人留学生特別入試を実施する。</p> <p><b>一般入試</b> 入学者の選抜は、プログラム毎に小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績等により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p> <p><b>推薦入試</b> 入学者の選抜は、プログラム毎に外国語(英語)試験、口述試験、志望理由書、推薦書及び成績証明書の成績等により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p> <p><b>社会人特別入試</b> 入学者の選抜は、プログラム毎に業績審査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績等により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p> <p><b>外国人留学生特別入試</b> 入学者の選抜は、プログラム毎に小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績等により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p><b>【学修成果】</b> 研究遂行に必要な医学、薬学及び看護学関連領域に係る幅広い学識と総合的な判断力を身に付けている。</p> <p><b>【到達指標】</b> 大学院共通科目及び研究科共通科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p><b>【学修内容】</b> 医学、薬学及び看護学領域を含む、修士として身に付けるべき幅広い知識の修得のために、大学院共通科目及び研究科共通科目の講義を実施する。</p> <p><b>【学修方法】</b> 講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)により学修する。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b> 試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p><b>【求める資質・能力】</b> 医学、薬学及び看護学分野の学部卒業レベルの基礎知識及び語学力を身に付けている。 医学、薬学及び看護学関連領域に係る幅広い知識を修得したいという意欲を持っている。</p>
<p><b>【学修成果】</b> 医学、薬学及び看護学関連領域の発展に寄与する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術、態度、並びに疾病の理解を含む医学的素養を身に付けている。</p> <p><b>【到達指標】</b> プログラム専門科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p><b>【学修内容】</b> 医学、薬学及び看護学関連領域の研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を修得するために、プログラム専門科目の講義及び実習・演習を実施する。</p> <p><b>【学修方法】</b> 講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)により学修する。 演習では、各分野における最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。 融合型・分野横断的教育を目的として、分野を横断した他の研究室での実験・実習指導や他分野の教員を副指導教員とするシステムを導入する。 特別研究では、各分野における背景に基づいて設定された研究課題に取り組みながら、専門知識や技術について実践的に指導を受ける。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b> 講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。 演習・特別研究では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p><b>【求める資質・能力】</b> 専門知識、技術の修得のために必要な基礎知識、語学力、理解力及び論理的思考能力を身に付けている。</p>
<p><b>【学修成果】</b> 研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。</p> <p><b>【到達指標】</b> 大学院共通科目「研究倫理」を修得していること。</p>	<p><b>【学修内容】</b> 研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。</p> <p><b>【学修方法】</b> 大学院共通科目「研究倫理」では、講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)により学修する。研究に関わる法令や各種申請の手続きについて、研究室で指導を受ける。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b> 大学院共通科目「研究倫理」では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。 法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p><b>【求める資質・能力】</b> 一般的な倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p><b>【学修成果】</b> 専門知識、技術を統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、医学、薬学及び看護学関連領域の諸課題を解決するための素養、並びに研究成果やその価値を説明、議論できる能力を身に付け、自ら新たな知を創造し、その知から更なる価値を生み出す能力を身に付けている。</p> <p><b>【到達指標】</b> 修士論文の審査及び試験に合格していること。</p>	<p><b>【学修内容】</b> 創造性の高い研究を遂行するための素養及び研究価値を説明、議論できる能力の修得のために特別研究を実施し、その成果をまとめて修士論文を作成するとともに、修士(学位)論文発表会にて発表を行う。</p> <p><b>【学修方法】</b> 論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を研究室の教員から指導、添削を受け、修士論文を完成させる。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b> 修士学位論文発表会のプレゼンテーションや質疑応答、修士学位論文評価基準に基づく修士論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p><b>【求める資質・能力】</b> 医学、薬学及び看護学関連領域の研究課題に取り組み、それを解決して社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>